

種名	<u>ギンヤンマ</u> <u>Anax parthenope Julius</u>  
分類	昆虫綱トンボ目ヤンマ科
俗称	
形態的な特徴	体長 70mm (腹長雄:53～58mm、雌:50～55mm。後翅長 50～55mm) ほどで、雌雄ほぼ同じ大きさである。成熟した個体は雌雄とも翅胸が明るい緑色をしておりほとんど斑がない。腹部第2節と3節の大斑は雄では明るい空色で、雌では黄緑色となる。また腹部第3節の下縁は美しい銀白色をしている。幼虫は、体長 49～55mm (頭幅 8.5～9.5mm) ほどの褐色や緑色に近い色をしたヤゴである。腹部背面に太い黒条が一本あり、その両側に淡色の条が見られる。
分布	北海道、本州、四国、九州に分布し、北海道の南部および東部では少ない。離島では利尻島、佐渡島、伊豆大島、三宅島、小笠原諸島の父島、母島、硫黄島、淡路島、隠岐、見島、壱岐、対馬、五島列島の福江島、天草諸島、甕島列島、琉球列島各地などに分布する。
繁殖行動	成虫は4月から 11 月頃に見られ、とくに5月下旬から9月下旬に多い。幼虫はおもに夜間、挺水植物の茎や葉裏、杭などの垂直からやや仰向けの場所に定位して羽化する。羽化後の新成虫は夜明けとともに近くの茂みへ飛んでいく。未成熟個体は水辺を離れ、かなり遠くまで移動することもある。成熟した雄は再び水辺へ戻り、池面の一面を占有して広い縄張りを形成する。雄は縄張りに雌が入ると直ちに連結、交尾をする。交尾後も連結したまま挺水植物や浮葉植物、沈水植物などの水面付近の生体組織内に産卵し、ときには水面に浮かんだ板切れや朽木などに産卵することもある。本種のように大型のトンボで連結産卵をおこなうのは極めて珍しい。
生息場所	おもに平地から低山地のやや大きい開放的な、挺水植物が繁茂する池沼を好む。水田や湿地の滞水などにも生息し、しばしば公園の池や社寺の境内池などでも見かける。農村地域では、各地の池沼や水田などで比較的ふつうに見られる。移動能力が強く、都市公園・農村公園などにある人工的な水域に一時的に見られることもあり、とくに8月～9月にこの傾向が強い。
食性	
生息環境への配慮事項	移動力が強く、各地の都市公園・農村公園などでも確認できることから、移動中に良い水域があれば定着する可能性もあるが、産卵のためには水につかった植物体などが必要になる。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html	